

令和七年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

大賞	コスモスの途切れて風を見失ふ 雑賀 みどり
----	--------------------------

【山下幸典先生 選】

特選	一塔は風の終点秋桜 古賀 しぐれ
入選	斑鳩は俳徒の聖地柿の秋 多田羅 初美
〃	天高し最古の塔の堂々と 安部 周子
〃	三塔をつなぐ苅田の径静か 宮元 美恵子
〃	コスモスに雨の光の加はりぬ 奥野 千草
〃	時の鐘余韻深くす秋日和 早川 節子
〃	新藁のにはひ豊かな太子道 須谷 友美子
〃	コスモスの途切れて風を見失ふ 雑賀 みどり
〃	三塔は古色を極め暮の秋 須谷 友美子
〃	子規句碑に旅行生来る小鳥来る 窪田 由紀子
〃	秋惜む尼寺の菩薩の微笑像 和田 唯美子

令和七年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【古賀しぐれ先生 選】

特選	柿熟れて斑鳩といふ長寿村	松田 吉上
入選	色変へぬ松の参道行くサリー	池田 幸恵
〃	法隆寺起点の塔の秋桜	中野 美栄子
〃	斑鳩は弥陀の懐秋深し	多田羅 紀子
〃	法起寺の庭と知りゐて白菌	中畑 文子
〃	斑鳩は俳徒の聖地柿の秋	多田羅 初美
〃	菊月や太子の遺訓和の心	池田 幸恵
〃	三塔を望む四阿金風裡	藤井 ケイ子
〃	塔の風わたるいかるが秋桜	倉田 美恵子
〃	コスモスの途切れて風を見失ふ	雑賀 みどり
〃	吊し柿一連ごとの塔の影	平尾 美智男

令和七年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【正岡 明先生 選】

特選	斑鳩の輪廻転生木の実落つ	中本 宙
入選	コスモスや仔犬の横目とちらり合ふ	山田 太陽
〃	新松子老いて高みを志す	梶田 高清
〃	柿の実のまろきを滑る雨雫	岡本 へちま
〃	南大門額縁にして塔の秋	大地 静子
〃	法起寺の庭と知りゐて白菌	中畑 文子
〃	秋深し和を貴しといつの世も	西岡 壽子
〃	コスモスの華やぎありて塔淋し	丸尾 義男
〃	梵鐘のしみ入る秋の法隆寺	田村 文代
〃	蒼天へ伸びゆく松の風白し	田子 美地子
〃	近づけば手折りたくなる秋桜	平畑 和子

令和七年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【和田 桃先生 選】

特選	こすもす畑行き通ふ人もそよぎをり	和多 哲子
入選	一塔は雀のお宿柿の秋	雑賀 みどり
〃	藁塚や夜来の雨を降り溜めて	片岡 宏子
〃	法起寺の庭と知りゐて白菌	中畑 文子
〃	色変へぬ松の存分なる参道	吉井 清子
〃	装を雨のち風に秋桜	浦野 智加男
〃	コンバインひとり舞台を往復す	山下 美江子
〃	コスモスの途切れて風を見失ふ	雑賀 みどり
〃	尼寺跡の礎石なづ風秋の声	加藤 ちえ
〃	夢殿へ土塀の続く風さやか	荒井 圭子
〃	三塔は古色を極め暮の秋	須谷 友美子

令和七年度 斑鳩の里を詠む 塔の里吟行」

【倉橋みどり先生 選】

特選	法起寺やずぶ濡れ飛蝗空を蹴り	米田 よし
入選	色変へぬ松の参道行くサリー	池田 幸恵
〃	柿の朱と歴史つなげる寝棺の朱	清水 悦子
〃	一塔は風の終点秋桜	古賀 しぐれ
〃	青空を取り戻したる松手入	正岡 明
〃	いかるがの標は塔と秋桜	中畑 文子
〃	中宮寺みち薄もみちにいくつ折れ	長崎 佳子
〃	大棉のまぐれ易くて破土塀	立入 宮子
〃	風の棲む塔三層の秋の声	上田 光子
〃	コスモスに雨の光の如はりぬ	奥野 千草
〃	コスモスの途切れて風を見失ふ	雑賀 みどり